

研究種目：基盤研究（C）

研究期間： 2007 ～ 2010

課題番号：19520071

研究課題名（和文） 米軍占領下の琉球列島におけるキリスト教交流史の研究

研究課題名（英文） The Study of the History of Trans-regional Contacts of Christianity in the Ryukyu Islands under Occupation by the U. S. Armed Forces

研究代表者

一色 哲（ISSHIKI AKI）

甲子園大学・人文学部・准教授

研究者番号：70299056

研究代表者の専門分野：沖縄・日本キリスト教史、文化交流史、沖縄・日本近現代史

科研費の分科・細目：宗教学

キーワード：沖縄キリスト教団、沖縄キリスト教団、沖縄キリスト教会、ベッテルハイム、軍事占領、宣撫工作、キリスト教交流史

## 1. 研究計画の概要

本研究では1940年代後半以降、米軍占領下の琉球列島においてキリスト教会や信徒の軍事占領下における活動を歴史的に検証し、それらが地域社会とどのような関係を構築してきたかを解明しようとするものである。そして、これまで、日本や沖縄で試みられてきた「一国伝道史」的キリスト教史の方法や視角を根本的に見直し、「キリスト教交流史」という方法論を確立しようとするものである。具体的には以下の課題について取り組んでいる。

- (1) キリスト教に関わる諸団体・組織についての調査と研究
- (2) 沖縄キリスト教史についての第一次史料（特に1940年代後半）の収集と保存
- (3) 軍事占領をめぐる政治状況や国際情勢とキリスト教の関わりについての調査と研究
- (4) 宮古・八重山群島のキリスト教についての包括的研究
- (5) 軍事占領下におけるキリスト教と地域社会との関係の総括と、「キリスト教交流史」の方法論の確立。

## 2. 研究の進捗状況

これまで年間2～3回の沖縄における現地調査（文献調査、聞き取り中心）により、以下の成果が得られた。

- (1) 当該期には米国の宣教師派遣団体だけではなく、海外の沖縄出身キリスト教徒による組織が沖縄の戦後復興や戦災による被災者等の救済、そして、それらを通しての

キリスト教伝道に寄与してきた。また、沖縄にいるキリスト者は自治的組織や政党・政治団体等に所属し、地域救済や復興についても積極的に発言・行動していることがわかった。このようなキリスト教に関係した諸団体・組織について、関係団体・個人が残した文献の調査によりキリスト教との関わりが解明されつつある。

- (2) 1940年代後半～1970年代前半にかけての第一級の第一次史料である「仲里朝章文書」についてはご遺族の好意で解読がすすみ、その研究上の位置づけも確立しつつある。その過程で1940年代占領初期のキリスト教団体（沖縄キリスト教団）の活動の詳細が解明されたのは特筆すべき成果である。また、この文書群については、報告者が関係者と沖縄キリスト教団との交渉を仲介し、2010年4月から同学院図書館に所蔵されることになり、資料の公開性が高まったことで、これからの沖縄キリスト教史が進展することが期待される。
- (3) 当該期のキリスト教は占領軍内部のチャプレン（従軍牧師）、宣教師、沖縄人信者、地域住民との関わりをもっていた。それらの政治的動向について詳細に検討した結果、当時の政治情勢や国際情勢とキリスト教伝道との関わりについて1940年代を中心にほぼ解明された。
- (4) 2009年は日本本土にプロテスタントの宣教師が渡来して150周年に当たり、本土と沖縄では「日本」へのキリスト教伝道についての起点について論争があった。これに対する応答として1846年に琉球王国に

伝道したベッテルハイムに対する沖縄での顕彰行事の検討を通して戦後の沖縄のキリスト教史について戦前・戦中との連続性の解明が進んだ。これは、「キリスト教交流史」の方法論の確立についてそれを深化させる契機となった。

### 3. 現在までの達成度

#### ② おおむね順調に進展している。

(理由)

本研究については沖縄島(沖縄本島)については重要な第一次史料を発見し、文献調査だけではなく、聞き取り調査も順調に進んでいる。しかし、宮古・八重山地域の調査はほとんど進んでいない。また、1950年代の沖縄でのキリスト教の動向についても、再度、性差の必要がある。これらは、今後の課題である。

### 4. 今後の研究の推進方策

これまで文献史料がほとんどないと言われてきた1940年代後半の米軍占領初期のキリスト教史について、本研究で第一次史料が発見され、聞き取り調査によってもこの年代のキリスト教史の再構成が可能になった。その上で、以下に今後の課題を記す。

- (1) これまで文献調査・聞き取りによりある程度明らかになっている1950年代と60年代の歴史的事実に関し、40年代の研究成果もあわせて、米軍占領下の沖縄島におけるキリスト教交流史を検討する。
- (2) これらの手法や史料的蓄積を踏まえた上で、宮古・八重山等の先島での占領下におけるキリスト教の布教についての意義を沖縄島での成果と有機的に結合してゆく。
- (3) 本研究終了以降のことを考慮し、戦前・戦中のキリスト教史を概括し、日本本土のキリスト教史から総体的に自律した沖縄キリスト教史の輪郭を明らかにする。
- (4) これまでの研究と今後の課題をあわせて、政治と宗教、国家と地域をめぐって複雑に絡み合ったキリスト教の役割についての考察を深め、キリスト教交流史の方法論を確立する。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 一色哲、軍事占領下における地域形成とキリスト教—1940年代後半の沖縄を事例に—、『日本の神学』、第49号、掲載予定、2010年、査読有り
- ② 一色哲、ベッテルハイムと沖縄、『キリスト教史学』、第63集、掲載予定、2010年、査読有り

- ③ 一色哲、米軍占領下における沖縄キリスト者の思想形成—1940年代後半の仲里朝章を中心に—、『東アジア宗教文化研究』、創刊号、pp63-89、2009年、査読有り

- ④ 一色哲、軍事占領下における軍隊と宗教—沖縄地域社会とキリスト教を事例に—、『甲子園大学紀要』、第36号、pp211-222、2009年、査読有り

- ⑤ 一色哲、日本基督教団における沖縄教会観の起源とその変遷、『キリスト教史学』、第61集、pp119-143、2007年、査読有り

[学会発表] (計7件)

- ① 一色哲、ベッテルハイムと沖縄、キリスト教史学会第60回学術大会、2009年11月22日、国際基督教大学
- ② 一色哲、軍事占領下の地域社会とキリスト教—1940年代後半の沖縄事例に—、東ASIA宗教文化学会 第1回国際学術大会、2009年8月16日、北海道大学
- ③ 一色哲、戦後政治のなかの沖縄キリスト聯盟—「新沖縄」建設をめぐる地域社会の対立と葛藤—、「宗教と社会」学会 第17回学術大会、2009年6月6日、創価大学
- ④ 一色哲、米軍占領体制の発足と沖縄教会の再出発、キリスト教史学会第59回学術大会、2008年9月20日、九州ルーテル学院大学
- ⑤ 一色哲、ある沖縄人キリスト者の被占領体験と新しい神学の創造—仲里朝章の場合—、東アジア宗教文化学会 創立記念国際学術大会、2008年8月2日、東義大学校(大韓民国釜山広域市)
- ⑥ 一色哲、国家、地域、教会—沖縄キリスト教をめぐる2つの国家と地域社会—、キリスト教史学会第58回学術大会、2007年9月15日、恵泉女学園大学
- ⑦ 一色哲、軍事占領下沖縄における“救い”と“癒し”の陥穽—キリスト教、国家、地域社会—、日韓宗教研究FORUM 第4回国際学術大会、2007年8月20日、浅口市市民会館(岡山県)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

ホームページ

<http://onecolor.cocolog-nifty.com/blog/>